

2022 年度 一般選抜 I 期 問題

総 合 問 題

実施日 2022 年 2 月 12 日 (土)

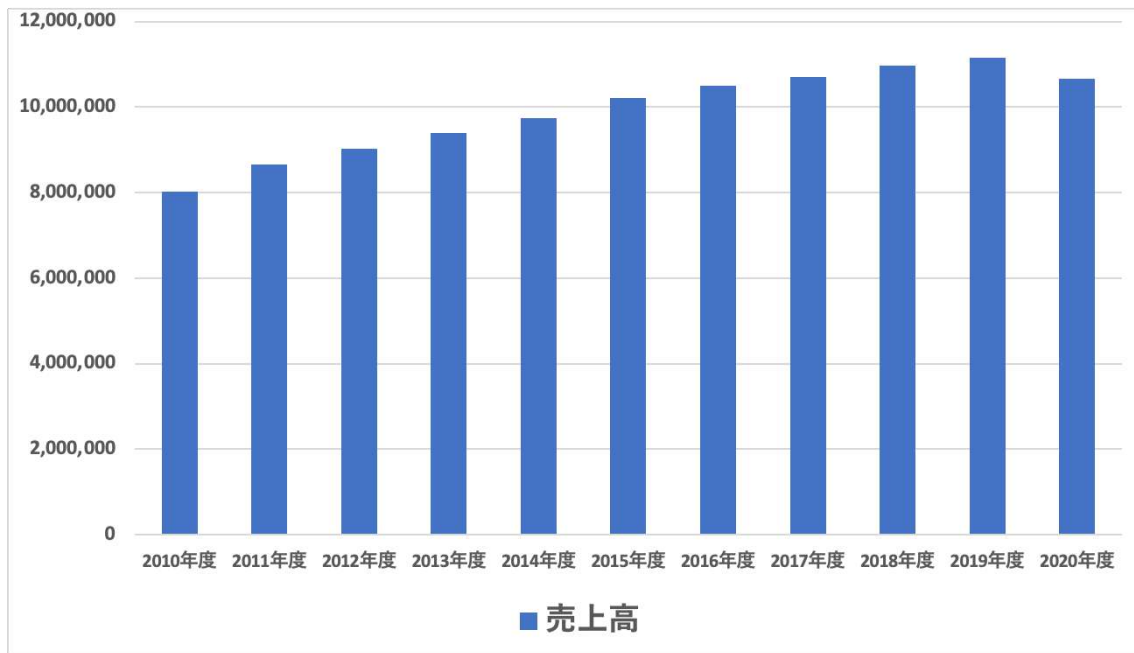
注意事項

1. 問題は **I** と **II** があり、4 ページまで印刷してあります。
2. 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入しなさい。

札幌大谷大学社会学部地域社会学科

I コンビニエンスストア業界の売上高は2019年までは過去最高額を更新していたが、2020年には新型コロナウイルスの影響により初の減少に転じた。在宅勤務や外出規制により自宅で過ごす時間が増加することで、商業施設や観光地などの売上低下に直結する結果となった。そのことを踏まえて、以下の問1から問3に答えなさい。

図1 主要コンビニの売上高の推移



<出典元> (一社) 日本フランチャイズチェーン協会 「コンビニエンスストア統計時系列データ」

図2 主要コンビニの店舗数の推移



<出典元> (一社) 日本フランチャイズチェーン協会 「コンビニエンスストア統計時系列データ」

問1 2020年には新型コロナウイルスの影響により売上高が大きく減少した(図1)。売上が減少したと考えられる主たる要因を、コロナ禍と絡めて150字以内で述べなさい。

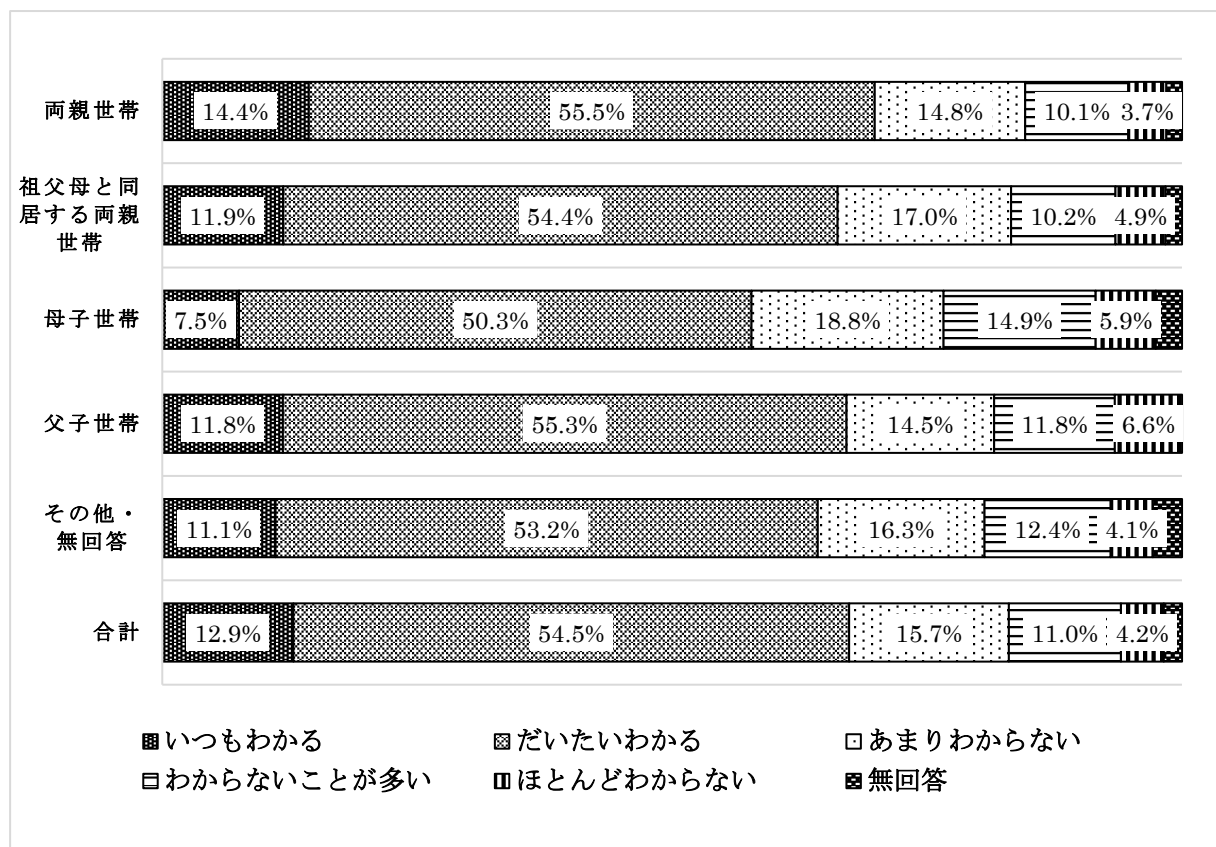
問2 2020年の売上高は減少したものの、主要コンビニの店舗数は横ばいとなった(図2)。店舗数が減らなかったと考えられる理由を「巣ごもり需要」という言葉を使用して、150字以内で述べなさい。

問3 あなたが住む地域のコンビニエンスストアはコロナ禍でどのような変化が見られただろうか。売っている商品の変化や店内のコロナ対策など気がついたことを、300字以内で述べなさい。

Ⅱ 最近のニュースで「こどもの教育」に強い関心を持った A さんは、今の学校教育に関する問題点を調べてみることにした。

北海道が 2018(平成 26)年に実施した「北海道子どもの生活実態調査」は、道内 13 市町の小学 5 年生・中学 2 年生・高校 2 年生およびその保護者の方を対象に、学校生活等について質問した調査である。この調査結果から、子ども本人が学校の授業をどの程度理解しているかについて、家族形態別に比較したものが以下の図 1 である。

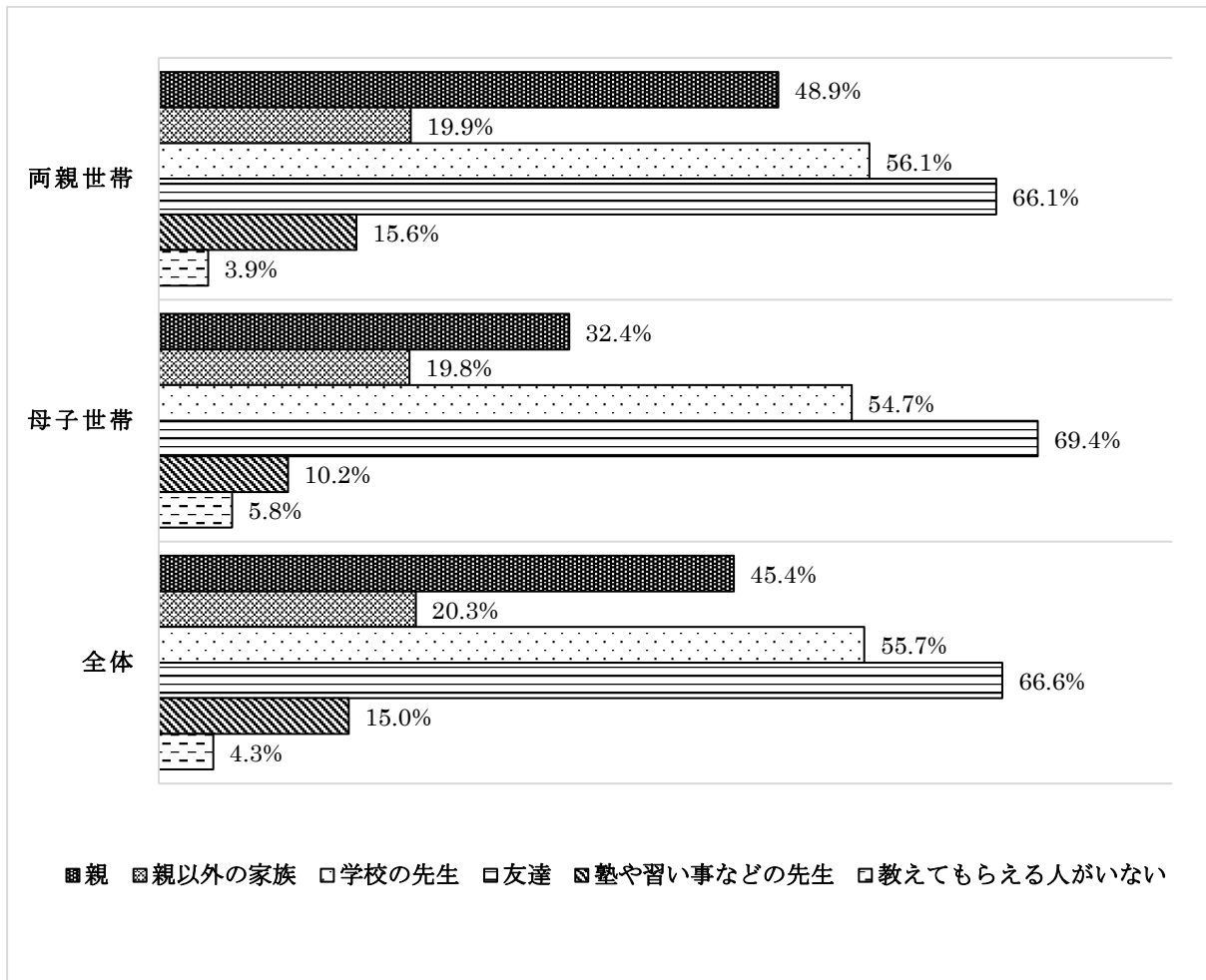
図 1 学校の授業でわからないことがあるか (家族形態別)



出所：北海道保健福祉部・北海道大学大学院教育学研究院「子どもの生活実態調査」研究班『北海道子どもの生活実態調査結果報告書(平成 29 年 6 月)』より作成

図 1 を見た A さんは、両親と一緒に生活する子ども（「両親世帯」）と母親とのみ生活する子ども（「母子世帯」）の間で大きな違いが生じる背景を分析したいと考えた。上記調査では「勉強がわからないときに誰に教えてもらうか」についても複数回答で尋ねているため、この質問への回答を両親世帯と母子世帯とで比較した結果が図 2 である。

図2 勉強がわからないときに誰に教えてもらうか



出所：図1に同じ。

問1 図1から読み取れる事柄について、100字以内で述べなさい。

問2 図2から読み取れる事柄について、150字以内で述べなさい。

問3 学校の授業が理解できずに困る子どもをなるべく減らすためには、どんな対策が有効だろうか。図1と図2から読み取れることを踏まえつつ、300字以内であなたの考えを述べなさい。

Ⅱ

問1 配点 10 点

新型コロナウイルスの蔓延は人々の交流を阻害し極力他人と会わないような生活への変化を余儀なくされた。また、観光客などが訪れる観光地や家族連れをターゲットとしていた商業施設は大打撃を受けた。外出自粛の生活を補うように、自宅で楽しめる宅配需要が伸びたことがコンビニの売上高を圧迫した原因であると推測される。(150 文字)

問2 配点 10 点

外出自粛生活が長引き、自宅生活を余儀なくされる「巣ごもり需要」が増加した。コンビニエンスストアは生活圏にあり品揃えも豊富で 24 時間経営が多い。さらに、宅配サービスとの相乗効果や巣ごもり需要に対応した商品が増加したことにより、自宅でも楽しく過ごすことができたために店舗数は減らなかったと推測される。(148 文字)

問3 配点 30 点

コンビニエンスストアは不特定多数のお客さんが使用することもあり、入口付近での検温と消毒が義務化されトイレの利用が制限された。また、レジに並ぶ際にもソーシャルディスタンスを保つように床面にシールを貼って一人ひとりの間隔を空けるように促したり、お客さんと対面するレジ前に透明の幕を貼って飛沫感染を防止しているような対策が見られた。商品については、自宅で楽しく生活できるような高価格帯のデザートやお弁当などが多く見られ、細かい雑貨関係が充実しマスクの種類も増えて遠くのスーパーや雑貨店に行かなくても商品が買えてとても便利だと思った。店員さんは換気や店内の消毒など細かな部分に注意していて大変だと感じた。(298 文字)

Ⅲ

問1 配点 10 点

両親世帯、祖父母と同居する両親世帯、父子世帯の子どもはいずれも 7 割近くが授業内容をおおよそ理解している一方、母子世帯ではその割合が 6 割弱にとどまり、授業理解に苦労する子どもが生じやすいことがわかる。(99 字)

問2 配点 10 点

母子世帯の子どもは、親に勉強を教えてもらおうという回答が両親世帯の子どもより 16% 低い。また塾や習い事などの先生に教わるという回答も、両親世帯の子どもより 5% 低い。

これらの結果から、家庭で勉強を教わる機会や塾に通う機会に恵まれないため、母子世帯の子どもにとって授業の理解が遅れやすくなると推測される。(149字)

問3 配点30点

図1や図2からわかることは、家庭や塾のような学校生活以外の場で勉強を教わったり、宿題に取り組む機会に恵まれないことが、授業が理解できず困る大きな要因の一つにあげられるということである。こうした課題を解決するためには、学習環境に恵まれない子どもでも安心して学習できる場を、我々の社会の中に多く設けることが有効であると考えられる。例えば放課後の時間、大学生が子どもにボランティアで勉強を教える機会を設けてはどうだろうか。また、地域のなかで子どもが相談し合いつつ宿題に取り組む場を設け、それを地域の大人が見守れるような環境を設けることは、子どもに勉強の習慣をつけさせる点でも有効であると思われる。(295字)